

1 目的

- (1) 体験活動を通して、既習活動を確かなものにし、自分ができることについて考え、実践できるようにします。
- (2) 校内・外の多くの人とふれあう機会をもつことにより、社会の一員としての資質を高めます。

○ 人権教育

人権や人権擁護に関する「知識理解」を進化させ、人権がもつ価値や重要性を直感的に感受し共感的に受け止める「人権感覚」を育成します。また、自分と他者の人権擁護を実践しようとする意識、意欲、態度を向上させ、実際の行為に結びつける「実践力や行動力」を育成します。

2 内容

- (1) 「自分を知ろう」1年生

○ 校外学習〔11月2日(水)〕

東山動植物園にて校外学習を実施しました。集団活動を体験することにより、自主性・主体性を高め、集団の調和を図る機会とすることができました。また、班活動を通じて、節度を守る行動をし、声をかけ合い、仲間との絆を深める機会とすることもできました。

- (2) 「自分を広げよう」2年生

○ 名古屋分散学習〔6月16日(木)〕

クラス・学年で、お互いに声をかけ合いながら節度を守って行動することで、自律性・責任感・実行力を身に付けるとともに、仲間との絆を深める機会となりました。

【行先】名古屋市内を中心に12見学施設（名古屋市科学館、名古屋城など）

- (3) 「自分を高めよう」3年生

ア 修学旅行〔6月13日(月)～6月15日(水)〕

「知る・ふれあう・果たす・守る」を目的として実施しました。課題をもち、主体的に見学できるように事前学習をし、現地で検証することができました。

【主な活動】 ・ 富士体験活動（洞窟体験・ネイチャートレイル・サンドブラスト）
・ 国会議事堂見学、都内クラス分散

イ 生き方

学年目標のもとに、自他を大切にするとともに、一つ先に目を向けた取組を常に意識させ、これからの就職や進学について、進路の計画と自分にふさわしい進路選択を自ら意欲的に、そしてできるかぎり自分の力で取り組めるよう指導を進めました。

【主な対策】 ・ 個別指導、二者懇談、三者懇談の実施
・ 進路説明会の開催による生徒・保護者へ進路の仕組みの説明

- (4) 人権学習

ア 「ハート——ク」

毎週水曜日に、生徒同士の意見交流を活発にする素地づくりや生徒の自尊感情、自己肯定感を高めるために、令和2年度から全校を挙げて構成的グループエンカウターの手法を取り入れたソーシャルスキルトレーニングを行いました。

イ 人権標語・人権作文・ポスター制作

人権を尊重しようとする意識を家庭や地域に浸透させ、地域社会における人権感覚豊かな人間関係の形成を推進するため、標語・作文・ポスターの制作に取り組みました。いろいろな角

度から人権課題について考え、標語はモニュメントとのぼり旗にして啓発します。

ウ 人権講演会〔12月2日(金)〕

今年は、落語家・笑福亭学光様を講師にお迎えし、人権講演会を行いました。「一人一人の存在と可能性～笑いでコミュニケーション作り～」と題して、中学生としての今後の生き方を考えました。お話いただいたことを今後の生活にいかすことができたと思います。

3 評価

(1) 校内オリエンテーション・校外学習（1年生）

5分前集合、集団で生活する際のマナー等、班長を中心に声をかけ合いながら、時間とルールを守り集団生活を行うことができました。集団行動や校外学習の活動を通して、仲間の優しさやありがたさに気づき、学級や学年がまとまり、有意義な活動となりました。

(2) 福祉実践教室

事前学習を通して、知識と関心をもって実践に臨めました。各講座では、疑問を質問しながら意欲的に取り組むことができました。事後指導では、私たちにできることを考え、相手のことを考えて行動することで「ともに生きる」社会の一員として気持ちを新たにすることができました。

(3) 名古屋分散学習（2年生）

班別で協力して名古屋市内の見学施設についての事前学習を行いました。当日は、班で協力して、事前に調べていた見学施設をまわり、仲間との関わりや時間を大切にすることができました。学校生活においても、他者への思いやりや規律・マナーについて、特に時間を意識して行動することの大切さを学ぶ機会となりました。

(4) 修学旅行

富士体験では、体験別の班で協力しながら事前学習を進めることができました。当日は、自然とふれあう中で、自己を見つめ直し仲間やペンションのオーナーと関わり合いを大切にしながら、取り組むことができました。また、体験活動を通して自然の雄大さを実感することができました。学校生活においても、規律やマナーについて、特に時間を意識して行動することの大切さを学ぶ機会となりました。

(5) 人権タイム

本校が以前から設定してきた人権問題について考える「人権タイム」と道徳の時間と令和2年度からはじまった「ハートーク」に、定期的かつ計画的に取り組むことで、生徒の人権感覚を地道に向上させることにつながっています。また、毎年人権週間に合わせておこなっている「人権集会」での人権作文発表と講演は、生徒にとってこれからの人生の生き方を考えるよい機会となりました。

4 課題

- 修学旅行では、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、一部体験活動の受け入れ人数や活動自体の変更の可能性と対応手順についても旅行社と事前の打ち合わせを何度も行いました。今まで以上に事前の打ち合わせの重要性を感じました。
- 「ハートーク」に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、感染予防対策を行いながら実施するために、導入されたタブレット端末を活用して生徒同士の考えを交流させるための研究をすすめていくことができました。今後もタブレットを効果的に活用するとよいと考えています。

人権集会に関しては、生徒の実態を鑑みて講師の選定を行うことや事前・事後の指導を充実させていくことも大切であると考えています。